

津山恵子の NY発 グローバル随想



#MeToo、Time's Up の広がり



イラスト・題字：長峯亜里

「ハッピー国際女性デー！」

3月8日朝、iPhoneに次々とメッセージが入ってきて驚いた。

「ハッピー国際女性デー！」「あなたと知り合えて良かった！」「素晴らしい女性の友人たちは、私の誇り！」。

昨年までは、国連などの行事を通して「国際女性デー」をようやく認識しており、特に友人と連帯感を覚えたこともなかった。

今年、友人と国際女性デーを祝おうという動きがあったのは、ひとえに #MeToo、Time's Up 運動の盛り上がりによるものだろう。#MeToo は女性がセクハラや性的犯罪を告発することを支援する運動、Time's Up はハリウッドのスターたちが始めた女性やマイノリティに対する犯罪・差別に反対する運動だ。Time's Up が、今年1月1日から集めた訴訟費用基金は2000万ドル(20億円)に上り、人権弁護士200人がボランティアを申し出ている。

歴史に残るアカデミー賞授賞式

3月4日放送された映画界の最大の祭典、アカデミー賞授賞式も、女性とマイノリティに対する

「讃歌」にあふれていた。視聴率は過去最低だったが、「多様性」を映画界が受け入れようと積極的にアピールしたとして、今年の授賞式は歴史に残ると確信している。

まず、豊満な女優キアラ・セトルが、映画『グレイテスト・ショーマン』でヒットとなった「This is me (これが私)」を熱唱し、感動したスターら聴衆が総立ちになった。大スターではなかったセトルが、疎外感を感じる女性やマイノリティを勇気付ける「歌姫」として圧倒的な存在感を示した瞬間だった。

さらに、サリー・ホーキンスが主演した『シェイプ・オブ・ウォーター』が作品賞を受賞した。男優ではなく女優主演作が同賞を得たのは13年ぶりだ。ハリウッドではいまだに男優の出演料が女優のそれを上回っており、受賞作も男性の監督・男優主演が圧倒的に多い中での快挙だ。

クライマックスは、主演女優賞を得たフランシス・マクドーマンド(『スリー・ビルボード』主演)の受賞スピーチだった。彼女は型どおりの謝辞ではなく、突然「inclusion rider」について語り始めた。inclusion は多様性を受け入れること、rider は契約の付帯条項だ。聞き慣れない言葉だが、彼女も授賞式の前の週に知ったという。それはハリウッドの大作の主演俳優らが製作者側に、他のキャストやカメラクルー、メイクアップに至